

| | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----|--|---|-----------------|-------------|----------------|------------|----------|----|----------|---------|
| 授業科目名 <英訳> | | 臨床遺伝学演習 Clinical Genetics, Exercise | | 担当者所属・ 職名・氏名 | | 医学研究科 教授 小杉 眞司 | | | | | |
| 配当 学年 | 専門職 | 単位数 | 1 | 開講年度・ 開講期 | 2016・ 後期 | 曜時限 | 水5・6:開講日注意 | 授業 形態 | 演習 | 使用 言語 | 日本語及び英語 |

[授業の概要・目的]

【基本情報】別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」
 授業日時：後期水曜5/6限（隔週を原則とする。例外予定にご注意ください）
 教室：G棟3階演習室、レベル：応用
 担当者：小杉眞司・浦尾充子・和田敬仁・三宅秀彦・澤井英明（兵庫医科大学）・村上裕美、鳥嶋雅子（遺伝子診療部認定遺伝カウンセラー）・SC：模擬患者ボランティア（SPH院生など）

【コースの概要】・演習開始1月前には、オリエンテーションを行い、クライアントの人数・性別を決めるが、その後の変更はしない。

- ・最初に1クールはクライアントは可能であれば1人とする（設定が複雑にならないようにするため）（ただし、ダウン症などは夫婦が原則であり1人クライアント設定は不適切）
- ・クライアント役をSPH院生に呼びかけてリクルートする（性別は役と一致させる）
- ・遺伝カウンセラー役が類似疾患にかぶらないようにする（家族性腫瘍、神経筋疾患、周産期関連）
- ・メンター役のクライアント調整役のほう（遺伝カウンセラー担当メンターよりも）が寄与度が高いので、優先して決める（一人に偏らないように）
- ・基本シナリオは担当教員が最低2週間前に関係者全員に通知する（ロールプレイのねらいを必ず明示すること）。2場面を設定する。
- ・1週間前までにクライアント調整役の院生は、GCメンター及び担当教員と相談の上で基本シナリオから詳細設定をし、クライアント役とメール等で打合せしておく。
- ・検討過程で基本シナリオに変更がある場合は、関係者全員に事前に必ず知らせる。
- ・詳細シナリオは家系図を入れて4ページ以内とする。
- ・当日、16:30-17:00にクライアント役、担当教員、クライアント調整役院生が副室で内容確認を行う。
- ・当日、16:30-17:00に遺伝カウンセラー役の院生が教員や上級生、GCメンターと疾患説明の確認、遺伝カウンセリング場所の整備などを行う。
- ・17:00-従前行っていた皆の前での疾患説明は行わないが、遺伝カウンセリングで使用する資料は配布資料とすること。クライアント調整役が基本シナリオ設定等の説明を手短に行う。
- ・17:00-19:30の予定でロールプレイを2場面行う。（例：場面1(55分)+フィードバック(15分)+休憩(15分)+場面2(45分)+フィードバック(15分)=145分）
- ・フィードバックは、遺伝カウンセラー役、クライアント役、M1オブザーバ、その他のオブザーバ、教員の順に行う。できるだけ全員に意見を求める(場面1と2いずれかで全員に発言してもらう)。重複コメントはあえて避ける必要ない。その際の進め方は、統一せず、指導教員の方針に従う。フィードバック方法の多様性も重要である)
- ・19:30-19:45でクライアント役、GCメンター、浦尾先生での情報交換
- ・授業終了後、メンターと院生M1全員、浦尾先生でのフィードバック

[到達目標]

遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。

[授業計画と内容]

【第1回】9月28日5限<小杉・和田・三宅>「ロールプレイの行い方」目的、方法、意義
 【第2/3回】10月12日<小杉・浦尾>「Lynch症候群」家系内に40-50歳代で大腸癌で死亡した複数の人があり、遺伝性の可能性を心配。遺伝学的検査の説明と実施、遺伝子変異があった場合の対応

臨床遺伝学演習(2)へ続く↓↓↓

臨床遺伝学演習(2)

【第5/6回】10月26日<三宅・浦尾>「ダウン症候群」ダウン症候群の出生前診断にかかる遺伝カウンセリングについて、その症状と将来の療育、発症の仕組みと次回妊娠での再発率等も含め対応

【第7/8回】11月9日<和田・浦尾>「ミトコンドリア脳筋症」の患者・家族に対して、遺伝医学的情報の適切な提供、心理的支援などを学ぶ

【第8/9回】11月30日<澤井>「習慣流産」妊娠初期に3回続けて流産。流産の原因や次回妊娠での対応、遺伝学的検査その他の検査、着床前診断について

【第10/11回】12月14日<小杉・浦尾>「遺伝性乳がん・卵巣がん」乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応

【第12/13回】1月11日<三宅・浦尾>「ターナー症候群」思春期をすぎて無月経で来院、染色体検査でターナー症候群と診断されたケースに診断の告知、疾患の説明、今後必要な治療について対応

【第14/15回】1月25日<和田・浦尾>「ファブリー病」の患者・家族に対して、遺伝医学的情報の適切な提供、心理的支援などを学ぶ

【第16/17回】2月15日<三宅・浦尾>「血管型Ehlers-Danlos症候群」成人期に突然死を生じる結合組織疾患のひとつ。疾患への対応、家族への影響について、遺伝子診療を中心に検討

・参加者：担当者、関係全教員、遺伝カウンセラー役院生（M1）、クライアント調整役（M1）、オブザーバ（M1、M2、博士院生）、GCメンター

・記録：クライアント調整役（終了後参加教官へレポートを提出）、オブザーバー担当（ビデオ撮影およびファイルをサーバに保存：復習用）

[履修要件]

遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目（事前確定科目）

[成績評価の方法・観点及び達成度]

演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

[授業外学習（予習・復習）等]

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。